

- (1) 圧縮力 5 Kg/cm²
- (2) 時間 2~3分
- (3) 温度 100°~80°c

4. 成 果 製品の種類, 使用目的, 大きさ, 加工法によつて適当な接着剤を選択する
又端部曲げ加工した場所は剝離の原因となるので接着剤は十分塗布する。
今后新材料の利用に対し, よく研究し新用途に大いに活用すべきである。

(14) 竹合板の塗装研究

1. 担当者 工業技師 大迫常盛
2. 目的 一般に竹材に使用されている, 塗料は, アミノ酸樹脂塗料が主であり, 竹合板の場合, 木材桧板と同様, 塗装工程を最少限にして竹孔をうめる塗料が必要であり, これに適する塗料の選定, 並に塗装を各様の方法で行い, 竹合板に対する塗装の効果を試みた。
3. 概要
 - a 試験材 竹合板 (各種)
 - b 使用塗料
 1. アミノ酸樹脂塗料 マーブラツク, リウタン
 2. ポリウレタン樹脂塗料 ポリウレタンクリヤーポリウレタンサンデング
 3. アクリル ク フラツトコーガ
 4. 硝化センキ素系塗料 フラツトクリヤ クリヤラツカーウッドシラ ー
 5. カ シ ュ ー
 - c 工 程

① 下塗アミノ酸樹脂シーラー 下塗=ポリウレタンシーラー
上 ク ク クリヤー 上ク=ポリウレタンクリヤ若しくは平艶
4. 成 果 素材が決定的なものであり, 用途に応じて耐候性を考慮に入れ密着性のある塗料を選定使用した。工程も2工程で仕上げる様実施した。
視覚的に完全と云えないが目的に近い結果を得た。

(15) 新らしい塗装法の研究

1. 担当者 工業技師 大迫常盛
堀切政幸
2. 目的 塗料は最近の化学工業の発達によつて, 新塗料が次々に出現し, 種々の特性を有し, 数多くの品種ができたので, この新塗料による新しい塗装法の研究を行つた。
3. 概要
 - a 試験材 本県産材を主材とし, 和洋家具に一般に使用しているものを取りあげた。